

第2期 橋本市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査

結果報告書抜粋

調査の概要

(1) 調査の目的

本市における子育て支援の充実を図るための具体的な計画である「橋本市子育て支援事業計画（平成 27 年度～31 年度）」の見直しにあたって、子育て世帯や子どもの生活実態や子ども・子育て支援事業に関するニーズ等を把握することを目的に実施しました。

(2) 調査概要

●調査地域：橋本市全域

●調査対象者：橋本市内在住の就学前児童の保護者（就学前児童用調査）

橋本市内在住の小学生児童の保護者（小学生児童用調査）

●抽出方法：住民基本台帳をもとに、対象児層を持つ全世帯を対象に実施

就学前児童（0歳～5歳）1,991 人

小学生児童（6歳～12歳）1,546 人

※年齢が下のお子さんについて回答。世帯に就学前児童と小学生児童がいる場合は就学前児童について回答いただく

●調査方法：学校・園を通じての直接配付・直接回収

（未就園児、広域入所、市外小学校通学者は郵送配布・郵送回収）

●調査期間：2019年1月17日（火）～2019年2月8日（金）

(3) 配布・回収結果

	配付数（件）	有効回収数（件）	有効回収率
就学前児童用調査	1,991	1,461	73.3%
小学生児童用調査	1,546	1,226	79.3%

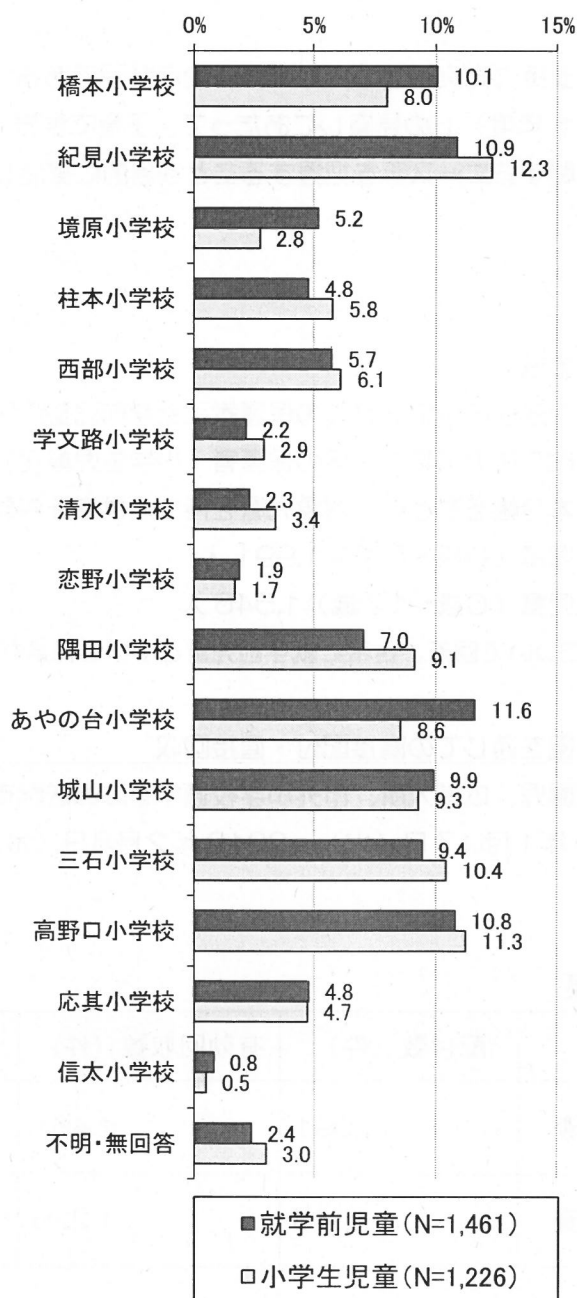
1. お子さんご家族の状況

[就学前児童用調査・小学生児童用調査／問1 単数回答]

(1) 居住学区

報告書：5ページ

居住学区についてみると、「あやの台小学校」が就学前児童で11.6%、「紀見小学校」が小学生児童で12.3%と最も高くなっています。



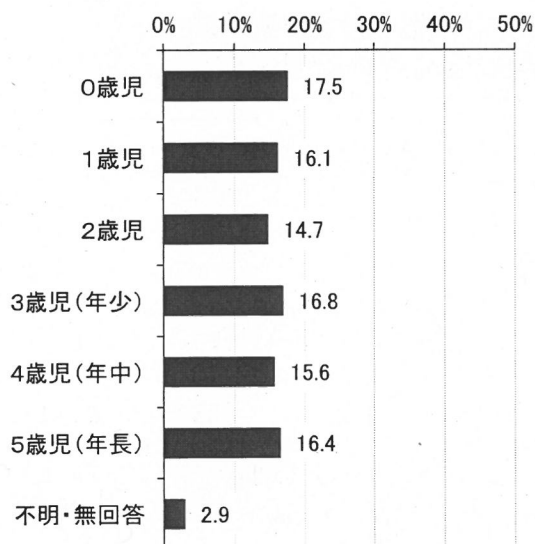
(2) 対象の子どもの年齢と学年

報告書：6ページ

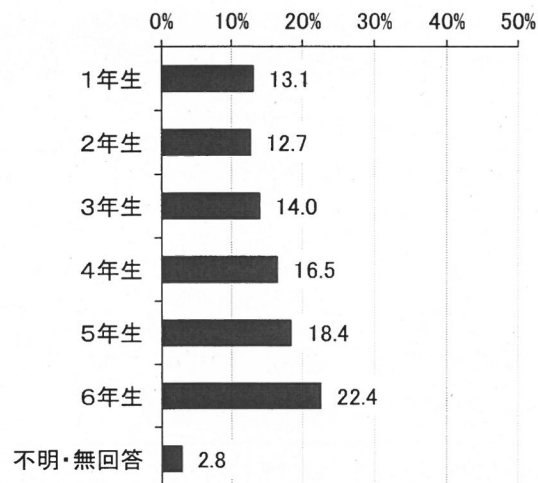
就学前児童の年齢についてみると、「0歳児」が17.5%と最も高く、次いで、「3歳児（年少）」が16.8%、「5歳児（年長）」が16.4%となっています。

小学生児童の学年についてみると、「6年生」が22.4%と最も高く、次いで、「5年生」が18.4%、「4年生」が16.5%となっています。

就学前児童 (N=1,461)



小学生児童 (N=1,226)

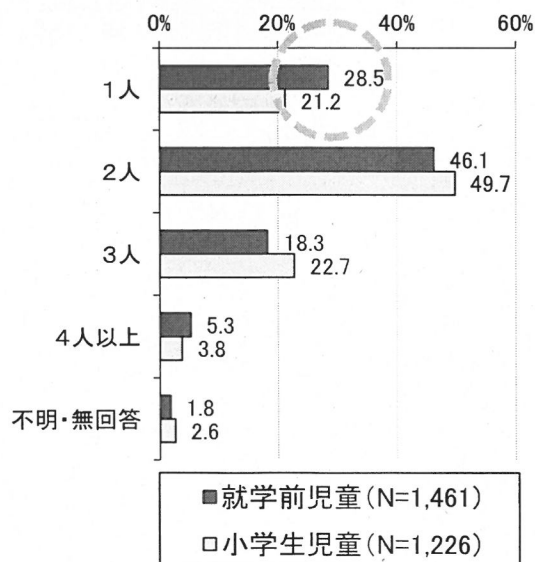


* ここでいう「年齢」は、平成30年4月1日時点の年齢です

(3) きょうだいの人数

報告書：6ページ

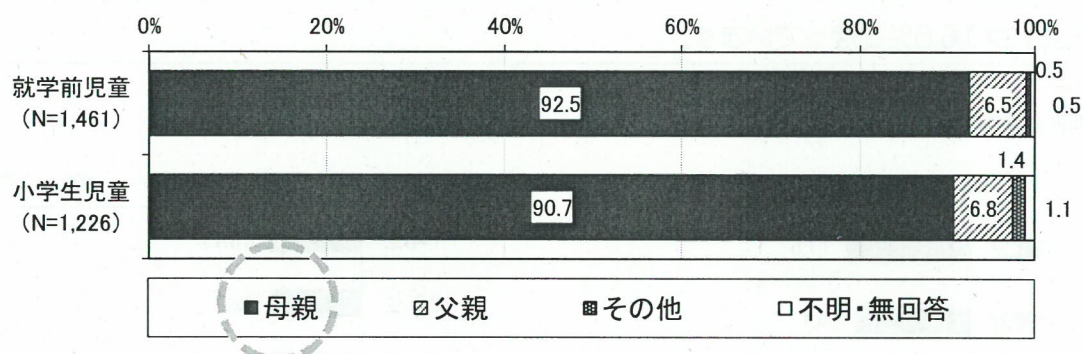
きょうだいの人数についてみると、「2人」が就学前児童で46.1%、小学生児童で49.7%と最も高く、次いで、就学前児童で「1人」が28.5%、小学生児童で「3人」が22.7%となっています。



(4) 調査票の回答者

報告書：7 ページ

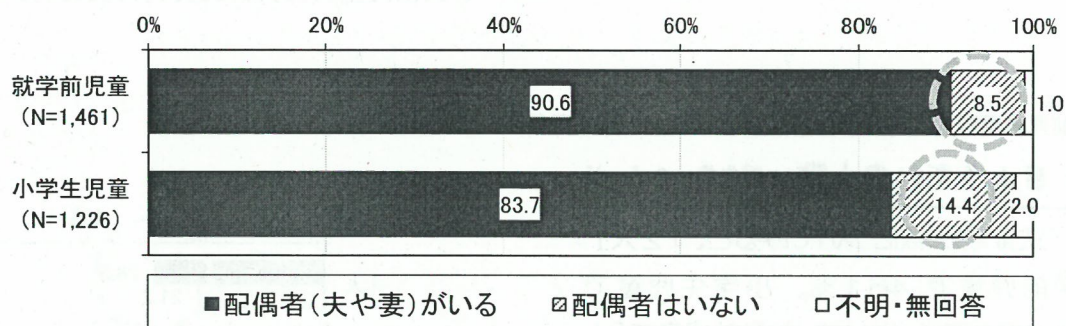
回答者についてみると、「母親」が就学前児童で 92.5%、小学生児童で 90.7%と最も高く、大部分を占めています。



(5) 回答者の配偶関係の有無

報告書：8 ページ

回答者の配偶関係の有無についてみると、「配偶者(夫や妻)がいる」が就学前児童で 90.6%、小学生児童で 83.7%となっています。一方、「配偶者はいない」が就学前児童で 8.5%、小学生児童で 14.4%となっています。

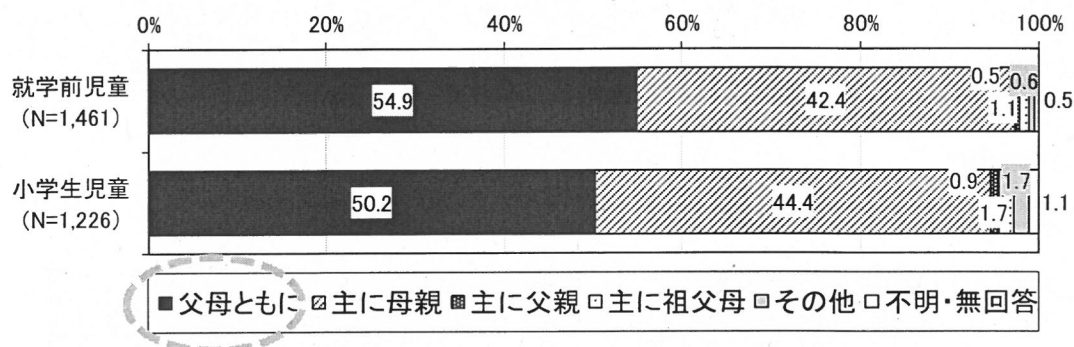


（6）子育て（教育）を主に行っている方

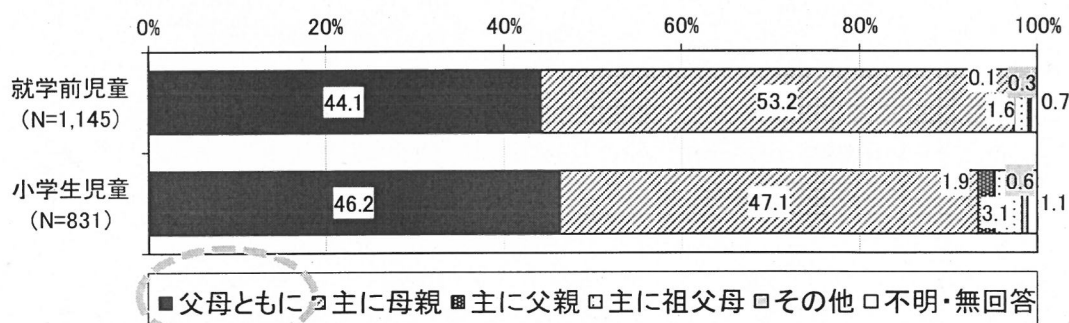
報告書：10 ページ

子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が就学前児童で54.9%、小学生児童で50.2%と最も高く、次いで、「主に母親」が就学前児童で42.4%、小学生児童で44.4%となっています。

前回調査と比較すると、「父母ともに」は前回調査より今回調査の方が、就学前児童で10.8ポイント、小学生児童で4.0ポイント高くなっています。



■ 前回調査



2. 保護者の仕事の状況

〔就学前児童用調・小学生児童用調査／問7 単数回答〕

(1) 保護者の就労状況

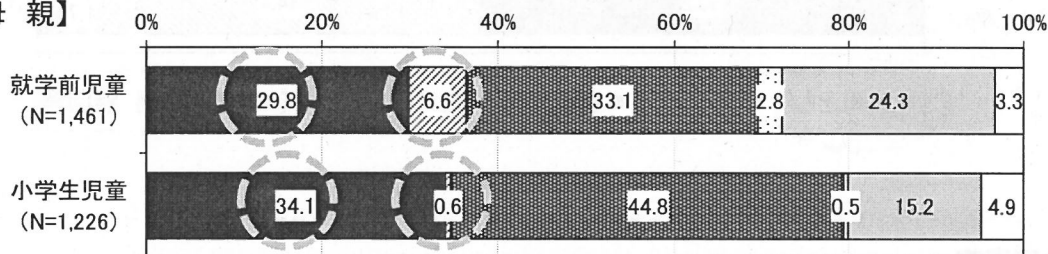
報告書：11～12 ページ

保護者の就労状況についてみると、現在の状況は、母親では、「パートタイムなどで働いている」が就学前児童で33.1%、小学生児童で44.8%と最も高くなっています。父親では「フルタイムで働いている」が就学前児童で87.9%、小学生児童で81.6%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、母親では、就学前児童、小学生児童ともに「専業主婦（夫）」で前回調査より今回調査の方が17.5ポイント低くなっています。一方、父親では、就学前児童、小学生児童ともに傾向はみられません。

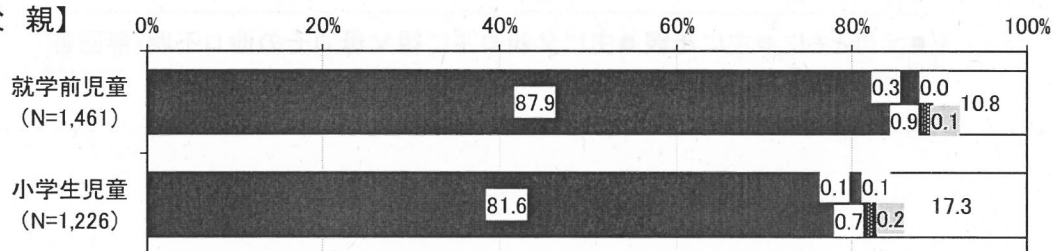
①現在の状況

【母親】



- フルタイムで働いている
- ▣フルタイムで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- ▤パートタイムなどで働いている
- ▥パートタイムなどで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- 専業主婦(夫)
- 不明・無回答

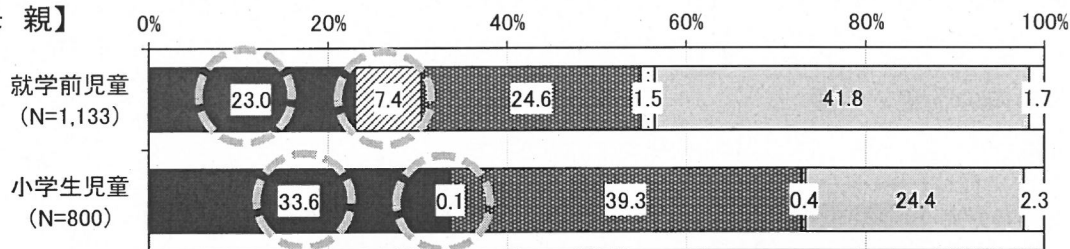
【父親】



- フルタイムで働いている
- ▣フルタイムで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- ▤パートタイムなどで働いている
- ▥パートタイムなどで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- 専業主婦(夫)
- 不明・無回答

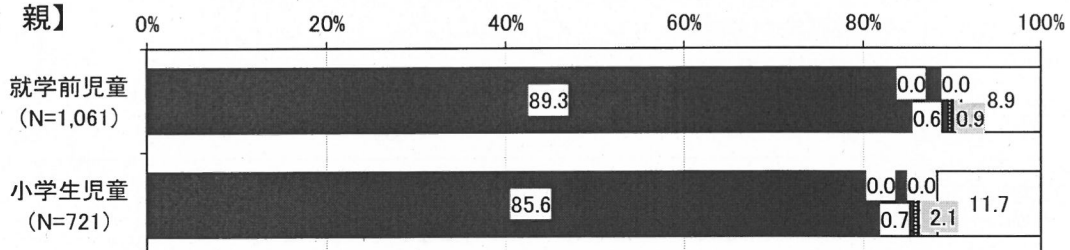
■前回調査

【母親】



- フルタイムで働いている
- ▣フルタイムで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- ▤パートタイムなどで働いている
- ▥パートタイムなどで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- 専業主婦(夫)
- 不明・無回答

【父親】

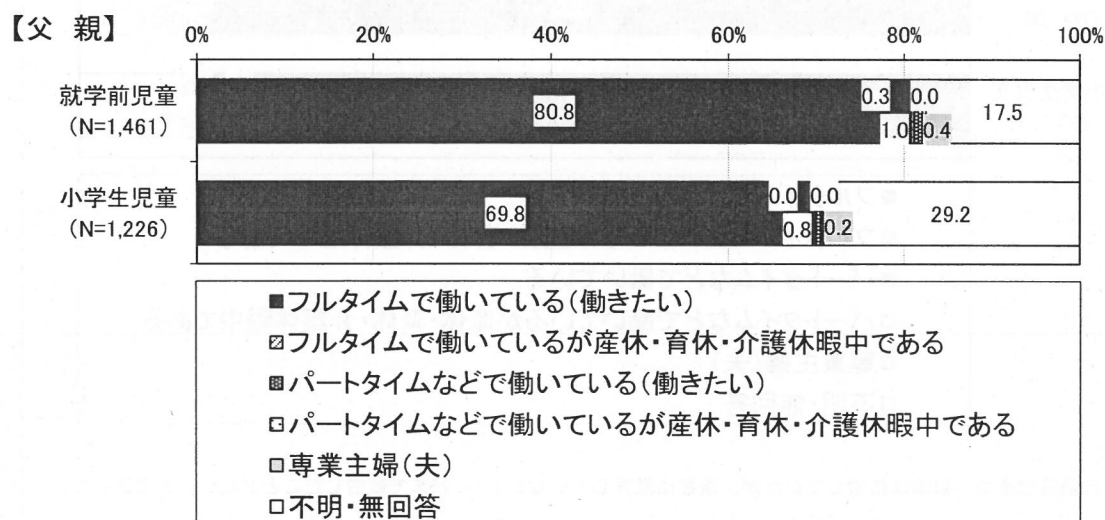
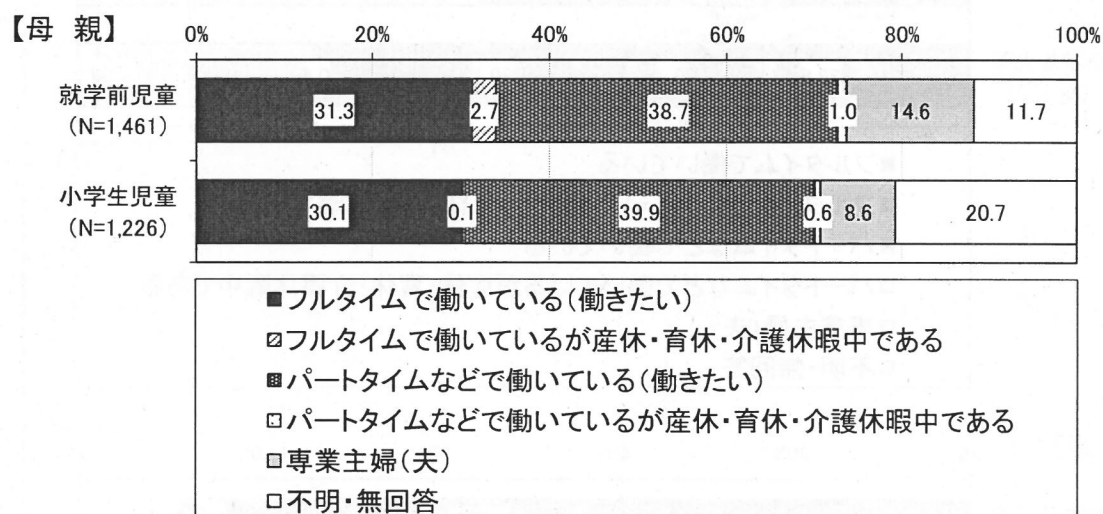


- フルタイムで働いている
- ▣フルタイムで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- ▤パートタイムなどで働いている
- ▥パートタイムなどで働いているが産休・育休・介護休暇中である
- 専業主婦(夫)
- 不明・無回答

※前回調査の「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」を合計して、
「専業主婦(夫)」として算出

1年以内の予定・希望についてみると、母親では、「パートタイムなどで働いている(働きたい)」が就学前児童で38.7%、小学生児童で39.9%と最も高くなっています。父親では「フルタイムで働いている(働きたい)」が就学前児童で80.8%、小学生児童で69.8%と最も高くなっています。

② 1年以内の予定・希望



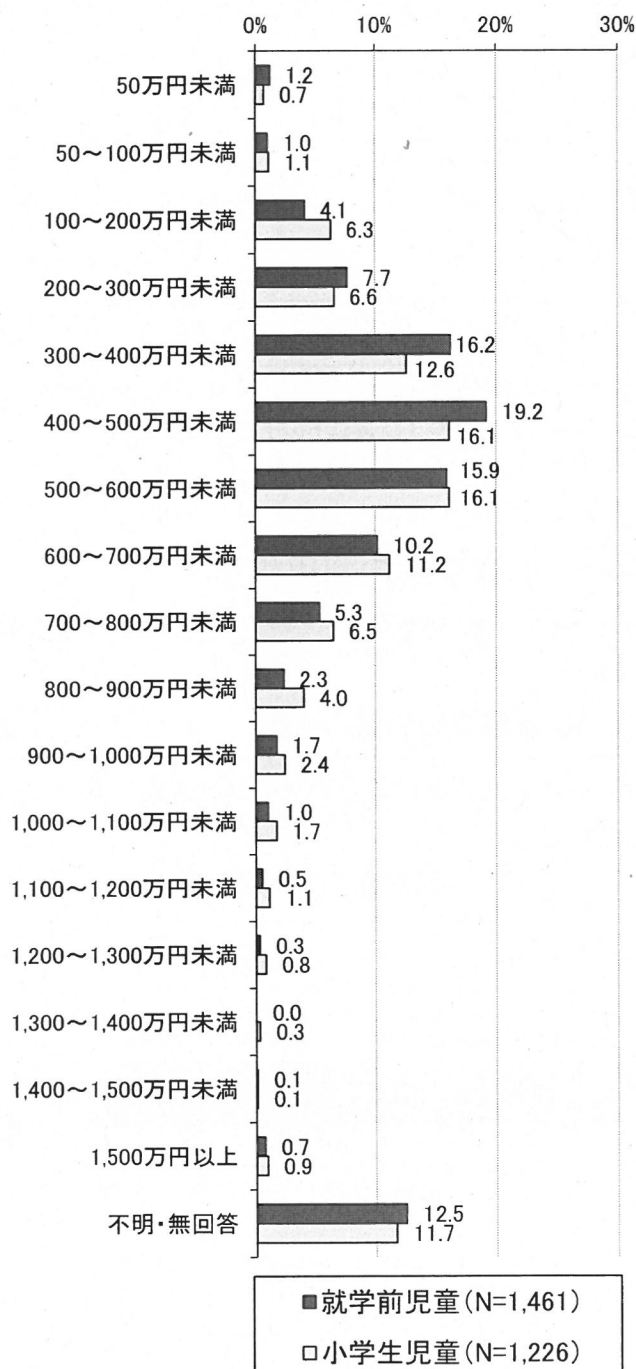
*「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労

*「パート・アルバイト」：フルタイム以外の就労

（２）世帯の年間総収入（税金等を天引きされる前の金額）

報告書：22～23 ページ

世帯の年間総収入についてみると、就学前児童で「400～500万円未満」が19.2%、小学生児童で「400～500万円未満」「500～600万円未満」が同率で16.1%と最も高くなっています。



参考：等価可処分所得に基づく困窮度の分類

困窮度分類	就学前児童 中央値：225 万円		小学生児童 中央値：247 万円		橋本市子どもの生活 に関する実態調査 (平成 30 年 3 月) 中央値：238 万円	
	人数	%	人数	%	人数	%
中央値以上	637	57.2	475	50.1	439	50.6
困窮度Ⅲ	322	28.9	321	33.9	245	28.2
困窮度Ⅱ	46	4.1	45	4.7	59	6.8
困窮度Ⅰ (相対的貧困率)	109	9.8	107	11.3	125	14.4
合計	1,114	100.0	948	100.0	868	100.0

※橋本市子どもの生活に関する実態調査の調査対象は小学5年生、中学2年生の保護者

※国の中央値は 244 万円、相対的貧困率は 13.9% (17 歳以下の子どもの貧困率)

〈平成 28 年 国民生活基礎調査より〉

3. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

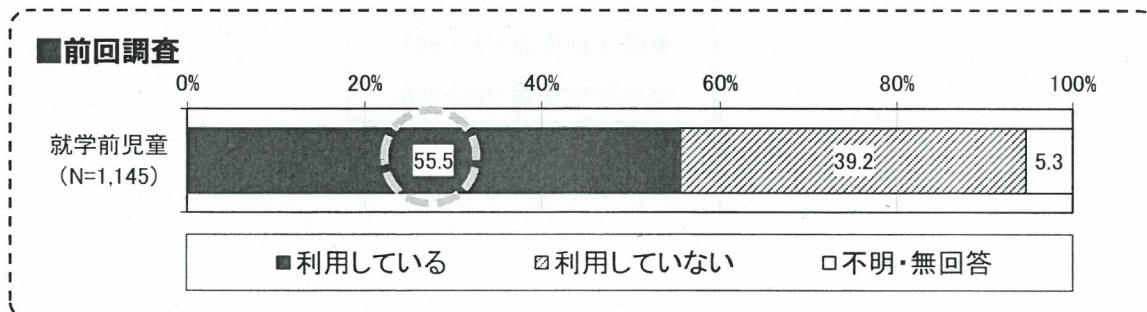
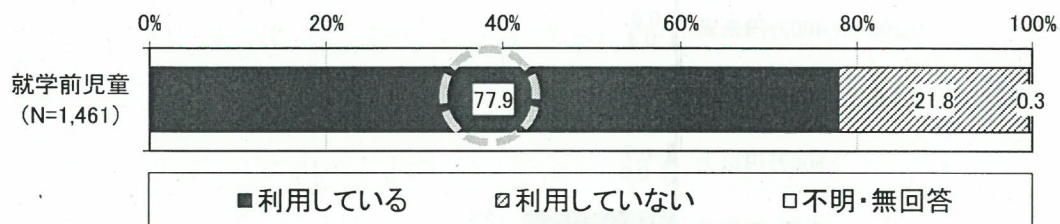
〔就学前児童用調査／問 9 単数回答〕

(1) 現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無

報告書：25 ページ

現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無についてみると、「利用している」が 77.9%、「利用していない」が 21.8%となっています。

前回調査と比較すると、「利用している」が前回調査より今回調査の方が 22.4 ポイント高くなっています。



①現在の利用状況〔就学前児童用調査／問9－1 複数回答〕

「1. 利用している」を選んだ方

（２） 平日に利用している教育・保育事業

報告書：27 ページ

②今後の利用希望〔就学前児童用調査／問10 複数回答〕

お子さんの生年月が平成25年4月2日以降（来年度も就学前）の方

（２）現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したい事業 報告書：34 ページ

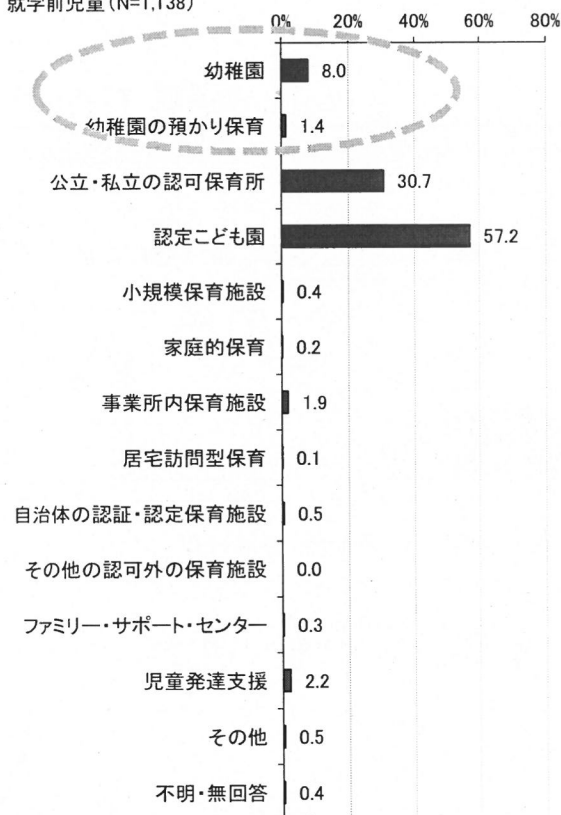
①平日に利用している教育・保育事業についてみると、「認定こども園」が57.2%、「公立・私立の認可保育所」が30.7%、「幼稚園」が8.0%となっています。

②定期的に利用したい事業についてみると、「認定こども園」が59.3%で最も高く、次いで「公立・私立の認可保育所」が26.3%となっています。

①現在の利用状況、②今後の利用希望ともにおおむね同様の傾向となっているものの、「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」は②今後の利用希望の方がそれぞれ6.8ポイント、5.0ポイント高くなっています。

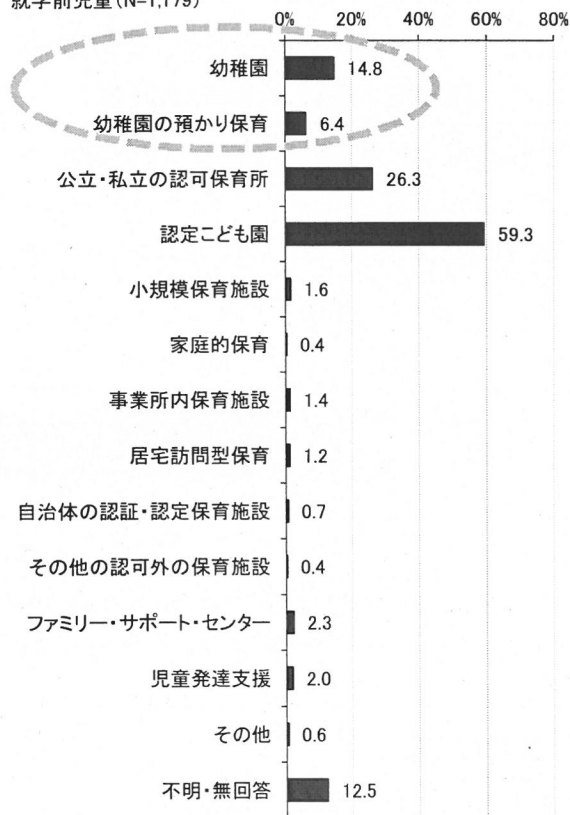
①現在の利用状況

就学前児童 (N=1,138)



②今後の利用希望

就学前児童 (N=1,179)



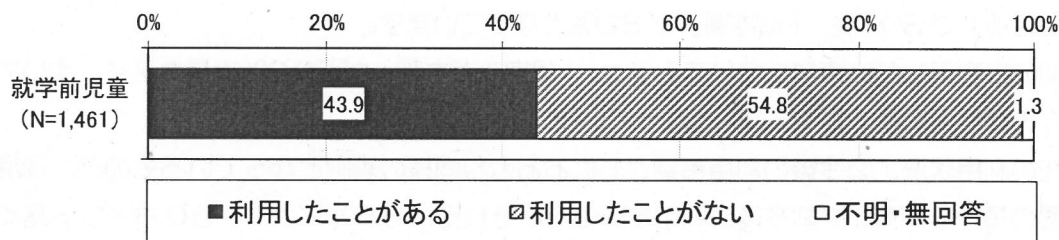
4. 地域の子育て支援事業の利用状況

〔就学前児童用調査／問 14 単数回答〕

（１）現在、地域子育て支援拠点事業の利用の有無

報告書：46 ページ

現在、地域子育て支援拠点事業の利用の有無についてみると、「利用している」が43.9%、「利用していない」が54.8%となっています。



〔就学前児童用調査／問 14-2 単数回答〕

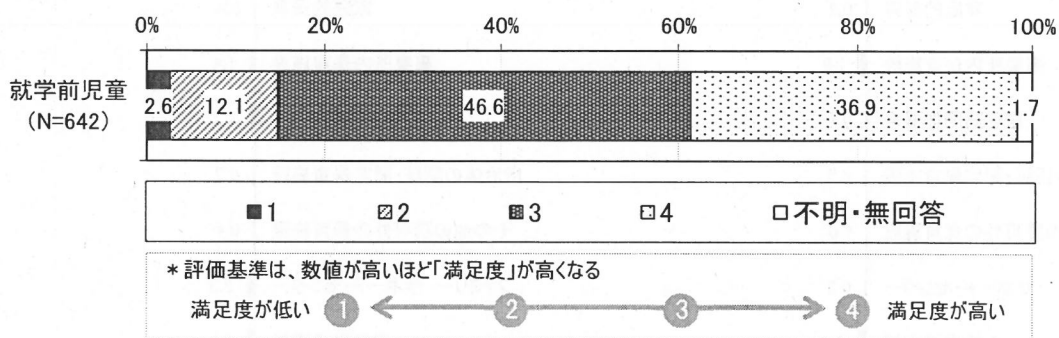
（１）で「1. 利用したことがある」を選んだ方

（２）施設を利用した際の満足度

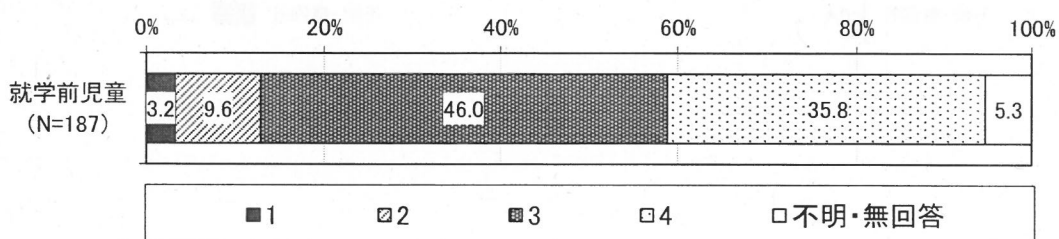
報告書：47 ページ

施設を利用した際の満足度についてみると、「3」「4」と『満足度が高い』割合が8割を超えています。

前回調査と比較すると、『満足度が高い』が前回調査と同様、今回調査も高くなっています。



■ 前回調査



5. 放課後の過ごし方

〔就学前児童用調査／問 22 複数回答〕

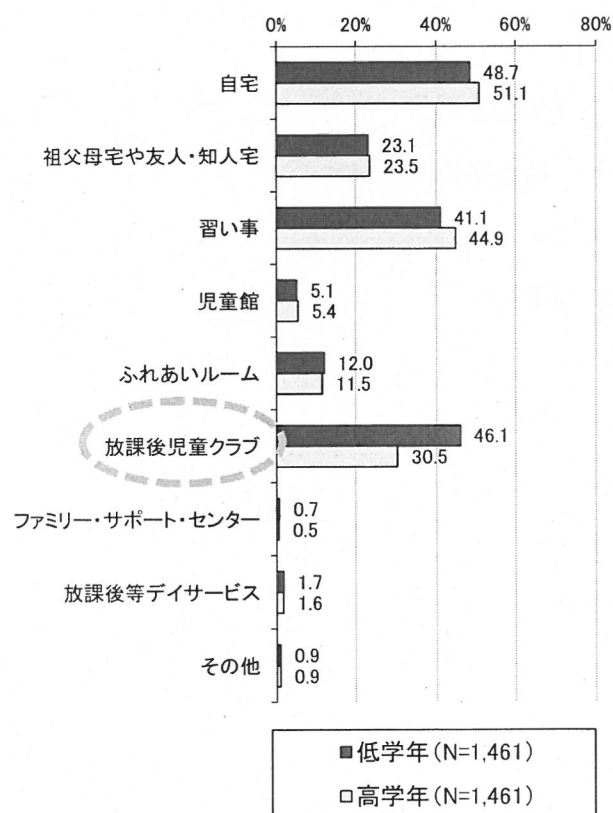
（１）就学前児童の小学校で希望する放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方

報告書：63～64 ページ

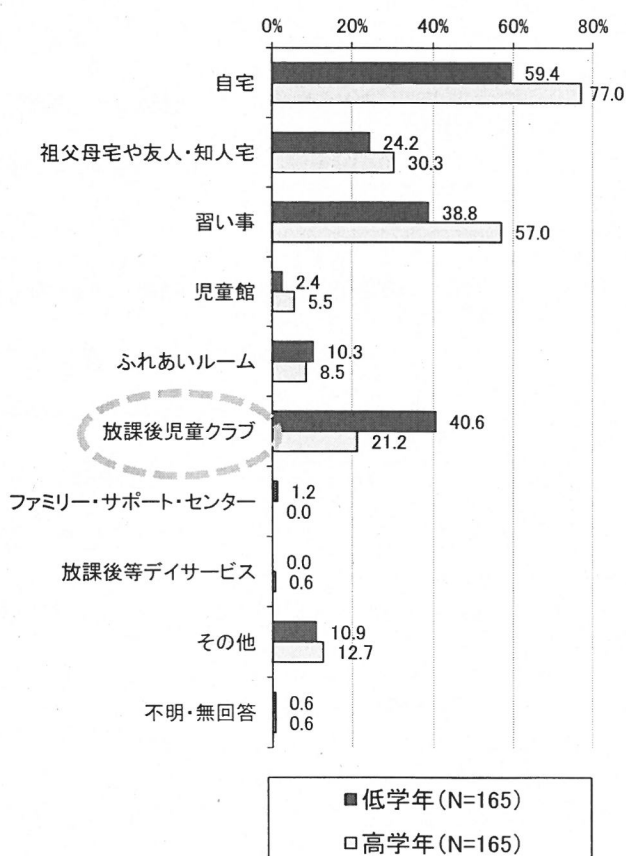
放課後の過ごし方の希望についてみると、「自宅」が低学年で48.7%、高学年で51.1%で最も高く、次いで低学年では「放課後児童クラブ」が46.1%、高学年では「習い事」が44.9%となっています。

前回調査と比較すると、低学年で、「自宅」が前回調査より今回調査の方が10.7ポイント低く、「習い事」が前回調査より今回調査の方が2.3ポイント高くなっています。高学年で、「自宅」が前回調査より今回調査の方が25.9ポイント低く、「放課後児童クラブ」が前回調査より今回調査の方が9.3ポイント高くなっています。

※日数を記入した方のみで集計



■前回調査



【お子さんが6歳以上の方の放課後の過ごし方】

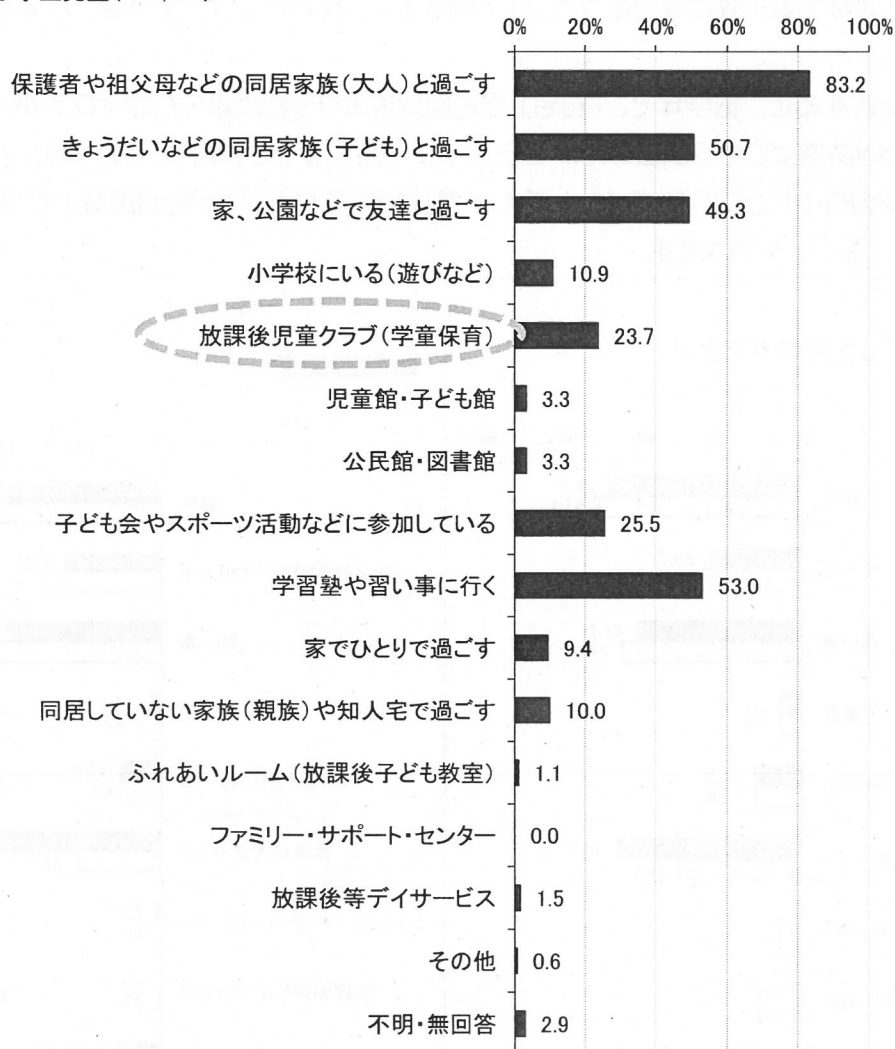
〔小学生児童用調査／問9 複数回答〕

（２）小学生児童の放課後や休日の過ごし方

報告書：68 ページ

小学生児童の放課後や休日の過ごし方についてみると、「保護者や祖父母などの同居家族（大人）と過ごす」が83.2%で最も高く、次いで「学習塾や習い事に行く」が53.0%となっています。

小学生児童 (N=1,226)



6. 子育て施策全般

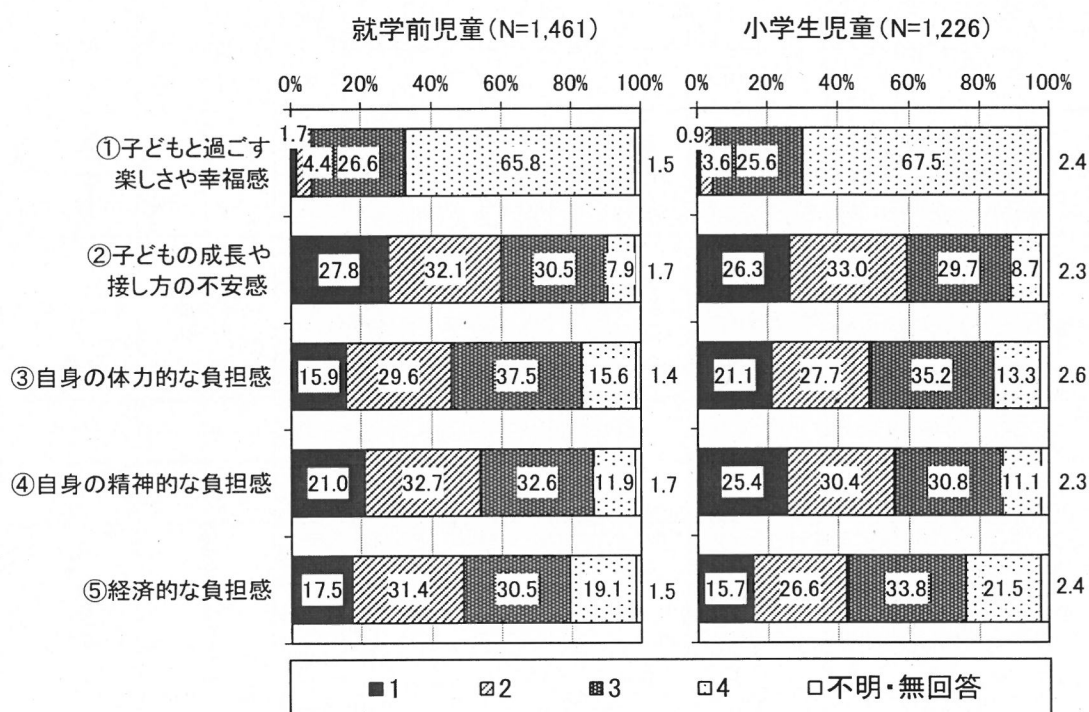
〔就学前児童用調査／問 26、小学生児童用調査／問 20 単数回答〕

(1) 子育てで感じること

報告書：93 ページ

子育てで感じることについてみると、『①子どもと過ごす楽しさや幸福感』を感じる度合いが「4」としたのは、就学前児童で65.8%、小学生児童で67.5%となっています。

それぞれ、就学前児童、小学生児童でおおむね同様な割合となっていますが、就学前児童の『③自身の体力的な負担感』が高い（「3」「4」の合計）、小学生の『⑤経済的な負担感』が高い（「3」「4」の合計）が、それぞれ半数を超えています。



* 評価基準は、数値が高いほど「幸福感」「不安感」「負担感」が高くなる

幸福感が低い
不安感が低い
負担感が低い



幸福感が高い
不安感が高い
負担感が高い

お子さんが3歳以上の方

(2) 就学(小学校入学)について、不安に思うこと

報告書：98 ページ

■子どもと過ごす楽しさや幸福感別

子どもと過ごす楽しさや幸福感別（数字が高い方が幸福感が高い）についてみると、すべての子育ての気持ちで「登下校の安全・安心」が高くなっています。

【就学前児童】		登下校の安全・安心		学習理解		集団生活		発達のこと		学級集団(いじめ)		生活習慣		食事と栄養のこと	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1(N=13)	幸福感が低い	9	69.2	6	46.2	8	61.5	5	38.5	9	69.2	0	0.0	1	7.7
2(N=37)	↑	28	75.7	24	64.9	21	56.8	12	32.4	24	64.9	7	18.9	5	13.5
3(N=199)	↓	139	69.8	112	56.3	106	53.3	56	28.1	111	55.8	38	19.1	26	13.1
4(N=451)	幸福感が高い	310	68.7	204	45.2	201	44.6	84	18.6	258	57.2	54	12.0	56	12.4

【就学前児童】		就労と放課後の子どもの過ごし方の調整		安心できる居場所の確保		子どもとの接し方、子どもとの時間		教育費等の出費		子どもに関する相談先		その他		不明・無回答	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1(N=13)	幸福感が低い	6	46.2	5	38.5	6	46.2	7	53.8	2	15.4	0	0.0	1	7.7
2(N=37)	↑	14	37.8	10	27.0	20	54.1	17	45.9	7	18.9	2	5.4	0	0.0
3(N=199)	↓	99	49.7	57	28.6	77	38.7	69	34.7	21	10.6	4	2.0	3	1.5
4(N=451)	幸福感が高い	204	45.2	108	23.9	107	23.7	126	27.9	34	7.5	8	1.8	25	5.5

(3) お子さんにかかる費用のうち、経済的に負担が大きいと感じるもの

報告書：102 ページ

■世帯収入別

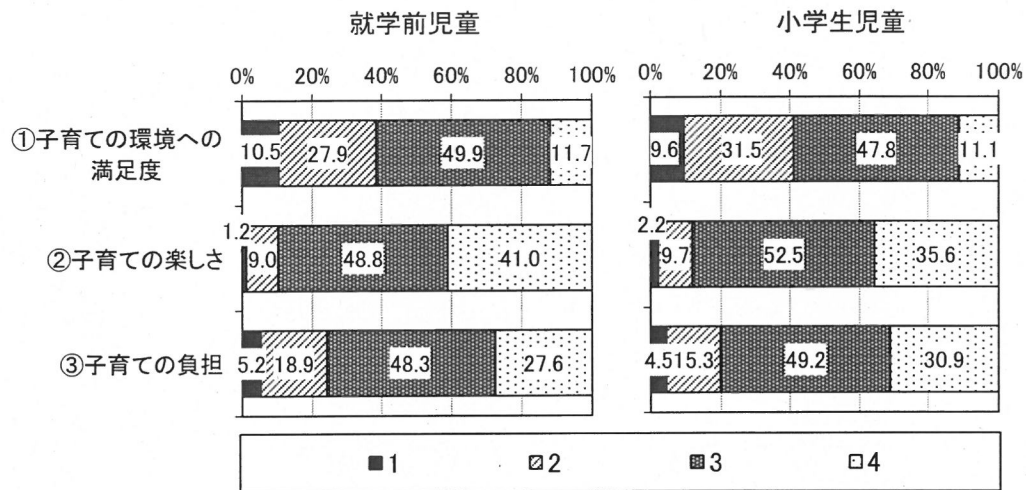
世帯収入別についてみると、[200万円未満]を除くすべての世帯収入で「学習塾や習い事にかかる費用」が最も高くなっています。[200万円未満]では「制服・体操服等の購入費」が高くなっています。

【小学生】	給食費等の学校の諸経費		学校の辞書・習字道具等の教材購入費		学校の部活動にかかる費用		制服・体操服等の購入費		学習塾や習い事にかかる費用		ゲームやスポーツ用品の購入費	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
200万円未満(N=98)	11	11.2	20	20.4	6	6.1	42	42.9	38	38.8	19	19.4
200～300万円未満(N=81)	14	17.3	7	8.6	6	7.4	42	51.9	42	51.9	18	22.2
300～400万円未満(N=154)	20	13.0	16	10.4	10	6.5	66	42.9	85	55.2	32	20.8
400～500万円未満(N=197)	22	11.2	21	10.7	13	6.6	71	36.0	130	66.0	30	15.2
500～600万円未満(N=197)	15	7.6	22	11.2	10	5.1	63	32.0	115	58.4	41	20.8
600万円以上(N=356)	23	6.5	22	6.2	13	3.7	67	18.8	216	60.7	64	18.0

【小学生】	スマートフォン等の通信料金		バスや電車等の交通費		医療費		その他		特に負担を感じるものはない		不明・無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
200万円未満(N=98)	14	14.3	2	2.0	2	2.0	7	7.1	11	11.2	4	4.1
200～300万円未満(N=81)	12	14.8	4	4.9	3	3.7	2	2.5	9	11.1	3	3.7
300～400万円未満(N=154)	25	16.2	3	1.9	2	1.3	6	3.9	30	19.5	1	0.6
400～500万円未満(N=197)	20	10.2	5	2.5	4	2.0	5	2.5	30	15.2	1	0.5
500～600万円未満(N=197)	22	11.2	5	2.5	6	3.0	5	2.5	30	15.2	7	3.6
600万円以上(N=356)	24	6.7	13	3.7	30	8.4	3	0.8	80	22.5	6	1.7

■前回調査

※「不明・無回答」を除いて集計した値



■参考：不明・無回答を除いた今回調査の値

